

平成 1 5 年度 病害虫発生予報 第 1 号

平成 1 5 年 4 月 1 4 日
発表：福島県病害虫防除所

病害虫の発生状況と発生予想（多 やや多 並 やや少 ・少 - 対象外）

作物名	病害虫名	発生状況 (平 年 比)				予想発生量 (平 年 比)				備考
		県北	県南	会津	浜	県北	県南	会津	浜	
水 稲	イネいもち病	-	-	-	-					
	イネ苗立枯病	-	-	-	-					
	イネ細菌性苗腐敗症	-	-	-	-					
麦 類	赤かび病	-	-	-	-					
リンゴ (ふ じ)	斑点落葉病				-				-	
	腐らん病				-				-	
	アブラムシ類				-				-	
ナ シ	黒 斑 病		-	-	-		-	-	-	二十世紀
	黒 星 病			-				-		
モ モ	せん孔細菌病		-	-	-		-	-	-	
	モモハモグリガ		-	-	-		-	-	-	
イチゴ	うどんこ病			-			-			過去 4 年と比較
	ハダニ類			-			-			
	アブラムシ類			-			-			
	アザミウマ類			-			-			
	オンシツコナジラミ			-			-			
キュウリ (冬 春)	うどんこ病			-			-			過去 4 年と比較
	べと病			-			-			
	ハダニ類			-			-			
	ミカンアザミ			-			-			
				-			-			

予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は並発生要因であることを示す。

発生予報と防除対策

A 普通作物

イネいもち病（育苗期）	地 方	県北	県南	会津	浜通り
	発生量	並			

1 予報の根拠

例年同様、種子更新率が高く、消毒済の購入種子の利用が定着している（±）。

昨年の穂いもちの発生は平年並であった（±）。

2 防除上注意すべき事項

ウィン箱粒剤、デラウス粒剤は播種時から移植当日まで施用が可能であるが、害虫との同時防除剤は、施用時期が単剤と異なる場合があるので注意する。

被害稲わらやもみ殻などは伝染源となるので、育苗床への使用や、周辺への放置を避ける。

育苗温度管理および水管理はこまめに行い、過湿や過乾燥を避ける。

イネ苗立枯病 (リゾプス属菌,フザリウム属菌, ヒシウム属菌,トリコデルマ属菌)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

- 1 予報の根拠
効果の高い薬剤による体系的な防除が普及・定着している（－）。
天候予報（４月11日発表１か月予報）によると、気温は平年並か高いと予想されている（＋）。
省力的な育苗技術の普及とともに、こまめな温度管理が十分に行われなくなっている（＋）。
- 2 防除上注意すべき事項
発生してからの防除は困難なので、病虫害防除情報ファクスサービス「ファピィ」情報番号21番を参照して予防対策に努める。
育苗期間中の極端な温度変化は発生を助長するので、緑化期以降は、昼間28 以上、夜間10 以下にならないよう気温の変動に応じて適切な温度管理を行う。とくに出芽時の高温はリゾプス属菌等の発生を助長するので注意する。
無加温育苗等で、保温資材による被覆が長時間にわたると、高温・過湿になりやすく、発生を助長するので注意する。
水管理はこまめに行い、過湿や過乾燥を避ける。

イネ細菌性苗腐敗症（もみ 枯細菌病、苗立枯細菌病）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

- 1 予報の根拠
例年同様、種子の更新率が高い（±）。
天候予報によると、気温は平年並か高いと予想されている（＋）。
省力的な育苗技術の普及とともに、こまめな温度管理が十分に行われなくなっている（＋）。
- 2 防除上注意すべき事項
種子消毒時にもみ枯細菌病の防除を実施する場合は、「ファピィ」（情報番号21番）を参照する。
緑化期以降の高温・過湿は、二次感染を助長するので避ける。
発病苗は移植せず、廃棄処分する。

ムギ類赤かび病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや遅い			
	発 生 量	並			

- 1 予報の根拠
出穂期は平年よりやや遅いと予想されている。
天候予報によると、降水量は平年並と予想されている（±）。
- 2 防除上注意すべき事項
感染時期は出穂期から開花盛期である。この時期に降雨があると発病が多くなるので、薬剤散布を実施する場合は、「ファピィ」（情報番号21番）を参照する。
平成15年産から赤かび粒の混入率が0.0%を超えた麦類については、食用としては規格外に格付けされるようになった。
刈り取り後は雨にあてないように注意する。
収穫に当たっては事前に赤かび病の発生状況を把握し、被害が認められる場合は健全な麦と仕分けして、収穫・乾燥をする。
共同乾燥施設においては、荷受け時にチェックを行う。赤かび病の被害粒が確認された場合は仕分けを行い、別に乾燥する。

B 果 樹

表 1 生育概況（果樹試験場 4 月10日現在）

樹 種	品 種	発 芽 期（月・日）		開花始期（月・日）	
		本 年	平 年	予測月日	平 年
リンゴ	つ が る ふ じ	3.26 3.29	3.29 3.30	- 4.27	- 4.28
モ モ	あかつき ゆうぞら	3.25 3.27	3.28 3.29	4.14 -	4.17 -
ナ シ	幸 水 豊 水	4. 3 3.30	4. 5 4. 2	4.23 -	4.24 -

注）開花期予測法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測。

各樹種の発芽期の平年比は、リンゴでは「つがる」が3日、「ふじ」が1日早い。モモでは「あかつき」が3日、「ゆうぞら」が2日早い。ナシでは「幸水」が2日、「豊水」が3日早い。

斑点落葉病（リンゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			-

1 予報の根拠

昨年度の秋季の調査では、各地域において枝上越冬病斑が平年並に確認されている（±）。

4月11日発表の1ヶ月予報によると、4月19日～5月9日の気温は平年並か低い見込みである（-）。

2 防除上注意すべき事項

落花直後から防除期に入るので散布時期が遅れないよう留意する。

腐らん病（リンゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			やや多 -

1 予報の根拠

各地域で発生は場を確認できるが、特に会津地域では発病度がやや多であり、発生している園も60%以上で平年より多い（+）。

2 防除上注意すべき事項

薬剤だけの防除は困難であり、病斑の早期発見・早期治療によって菌密度を低下させる。

（治療方法）

早期摘果、摘果剤（ミクロデナポン水和剤85 濃度1200倍）散布、せん定痕の癒合剤（トップジンMペースト、バッチレート）を塗布する。

放任園は腐らん病の伝染源となるので伐採する。

展葉初期の防除では黒星病との同時防除を兼ね、ベフラン液剤（1000倍）を散布する。

アブラムシ類（リンゴ） （短果枝上の越冬卵量）	地 方	県 北	県 南	会	浜通り
	発 生 量	やや少			-

1 予報の根拠

越冬卵量はやや少なかった（-）。

2 防除上注意すべき事項

開花直前にリンゴクビレアブラムシ、ナシハマキワタムシの発生が確認される場合、硫酸ニコチン液剤を加用する。

黒 斑 病（ナ シ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	-		

1 予報の根拠

平均越冬病斑枝率は平年より低いものの発生は全体に認められる。調査地点の中には平年を上回る園地も確認される（±）。

越冬枝病斑を確認したほ場は、平年（71.1％）より少ないものの60％以上あった（±）。

2 防除上注意すべき事項

発芽1週間後にキャプタン・有機銅剤（トモオキシラン水和剤 500倍、フジオキシラン水和剤 500倍）を散布する。

越冬伝染源（感染枝・罹病芽（ボケ芽等））の除去や、塗布剤（トップジンMペースト）により病斑を封じ込める。

黒 星 病（ナ シ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並		-	並

1 予報の根拠

会津を除く全県において、芽鱗片発病の発生量は平年並である。（±）。

4月11日発表の1ヶ月予報によると、4月19日～5月4日の気温は平年並か低い見込みである。なお、本病はの感染好適条件は低温・湿潤である（+）。

2 防除上注意すべき事項

開花前後の散布が重要である。E B I 剤にジラム・チウラム剤を加用して散布する。

開花期に低温となる見込みなので、開花期前後の防除間隔が空かないようにする。花弁が落下し始めれば散布は可能である（人工交配後2日あれば防除による結実への影響は小さい）。

その他病害虫の発生動向と防除対策

主要鱗翅目類（リンゴ、モモ、ナシ）

主要な鱗翅目害虫の発生は、平年並と見込まれる。モモハモグリガ、キンモンホソガ及びナシヒメシロクイの防除適期は、4月6半旬～5月1半旬（県北地方）と推定される。

C 野 菜

イチゴうどんこ病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多		-	やや多

1 予報の根拠

4月上旬の巡回調査では、例年と比較して、発生ほ場率がやや高かった（+）。一部多発しているほ場も認められた。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、「ファピィ」情報番号43番を参照する。

ハダニ類（イチゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並		-	やや多

1 予報の根拠

4月上旬の巡回調査では、例年と比較して、浜通りでは発生ほ場率がやや高かった（+）。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、「ファピィ」情報番号43番を参照する。

アブラムシ類（イチゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	やや多	-	並

1 予報の根拠

4月上旬の巡回調査では、例年と比較して、県南では発生ほ場率がやや高かったが（＋）、県北および浜通りでは例年並であった（±）。一部で果梗での寄生が多いほ場が散見された。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、「ファピィ」情報番号43番を参照する。

アザミウマ類（イチゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並		-	並

1 予報の根拠

4月上旬の巡回調査では、例年と比較して、発生ほ場率および寄生花率は例年並であったが（±）、果実被害の発生しているほ場が散見された。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、「ファピィ」情報番号43番を参照する。

オンシツコナジラミ(イチゴ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並		-	並

1 予報の根拠

4月上旬の巡回調査では、例年と比較して、寄生葉率および発生ほ場率は例年並であったが（±）、すす病の発生しているほ場が散見された。

キュウリうどんこ病(施設)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多		-	やや多

1 予報の根拠

4月上旬の巡回調査によると、例年と比較して、発病葉率がやや高く（＋）、一部では多発ほ場も散見された。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、「ファピィ」情報番号41番を参照する。

天候予報

向こう1ヶ月（平成15年4月11日仙台管区气象台発表）の気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込みです。

お 知 ら せ

昨年、無登録農薬が全国的に流通し、使用されている実態が明らかとなり、国民の「食」に対する信頼を損なう大きな問題となりました。

このため、昨年12月に農薬取締法が改正され、3月10日からこの改正法が施行されました。主な改正点は、無登録農薬の製造・輸入、使用の禁止（販売従来から禁止）、農薬使用基準に違反する農薬使用の禁止、罰則の強化などであり、農薬を製造・輸入・販売・使用するすべての国民に関係する内容です。

農家だけでなく、家庭菜園や花壇や芝の手入れをする方であっても、農林水産省の登録番号のある安全性の確認された農薬を、ラベルをよく読んで使うことが必要です。

無登録農薬はみんなで排除しましょう。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホ－ムペ－ジ（<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>）の「農薬コ－ナ－」をご覧ください。

病害虫防除情報ファクスサービス「ファピィ」

情報分類	情報発表日	情報番号	情報提供機関
総合案内	2003年 4月14日	0-0304-03	福島県病害虫防除所
情報タイトル			枚数
病害虫防除情報ファクスサービス「ファピィ」の総合案内			1
			作物名
			共通

情報の種類と情報番号

情報の種類	番号	発表日	情報の内容	枚数
総合案内	0	4月14日	情報の種類、内容、発表日を示す	1
発生予察情報			(本県で発表した最新の発生予察情報など)	
定期予報	1 0	4月14日	平成15年度発生予報第1号	5
防除情報			(病害虫の具体的発生データや防除対策など)	
水 稻	2 0	4月 7日	田植までの病害虫防除対策(育苗箱施薬剤)	2
"	2 1	3月 3日	水稻の育苗期病害防除対策について	4
"	2 3	4月 9日	ムギ類の赤かび病対策	1
果 樹	3 0	3月13日	果樹病害虫総合(3/13発表の情報をまとめてあります)	5
"	3 3	3月13日	ナシ黒斑病の越冬状況と防除対策	1
"	3 5	3月13日	クサギカメムシの越冬状況	2
"	3 6	3月13日	ハダニ類の越冬状況と防除対策	2
野 菜	4 3	4月11日	イチゴにおける病害虫の発生状況と防除対策	3
"	5 0	4月11日	冬春キュウリ(施設)の病害虫の発生状況と防除対策	1
その他	6 6	3月27日	牧草におけるムギダニの発生状況と防除対策	1
"	6 0 0	7月12日	ミカンキイロアザミウマの発生状況と防除対策	1
農 薬	7 1	1月17日	平成14年11～12月に登録が失効した農薬	3
"	7 2	3月14日	農薬取締法の改正について	1
"	7 3	3月14日	農薬取締法第11条について	1
"	7 4	3月14日	農薬取締法第12条について	3
"	7 5	6月14日	PCPを含む農薬の回収について	1
"	7 6	6月14日	PCNBを含む農薬の回収について	1
気象情報	9 0	金曜夕方	金曜発表の1ヶ月予報、金曜発表の週間予報	2

は最新の情報であることを、 はこれまでに発表した情報であることを示しています

F A X の操作方法

お手元のF A Xから「024(923)2010」に電話する。

ダイヤル回線の場合のみ「トーン(*)」または「PB」ボタンを1回押す(入力信号をツッシュ信号に切り替える。ただし機種によって切り替えボタンが異なりますので、F A X取り扱い説明書を参照ください)。

音声案内に従い^{注1)}、取り出したい情報番号^{注2)}に続けて、「シャープ(#)」を押す。「ビー」の音がしてから、通信ボタン(「受信」や「スタート」ボタンなど)を押す。

受話器を置く。

注1) 音声案内中でも、情報番号の入力はできます。

注2) 情報番号がわからない場合でも、F A Xの通信ボタンを押すだけで、総合案内の情報を取り出せます。

お 知 ら せ

昨年、無登録農薬が全国的に流通し、使用されている実態が明らかとなり、国民の「食」に対する信頼を損なう大きな問題となりました。

このため、昨年12月に農薬取締法が改正され、3月10日からこの改正法が施行されました。主な改正点は、無登録農薬の製造、輸入、使用の禁止(販売は従来から禁止)、農薬使用基準に違反する農薬使用の禁止、罰則の強化などであり、農薬を製造・輸入・販売・使用するすべての国民に関係する内容です。

農薬は農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい農薬情報は、農林水産省ホムペジ(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)の「農薬コナ」をご覧ください。

情報内容への質問や要望は病害虫防除所までご連絡ください。

TEL: 024-938-4242 FAX: 024-923-2012 e-mail: kfsn0301@sp.jpfn.ne.jp

病害虫防除情報は、ファクスサービス(FAX: 024-923-2010)で取り出せます。またうつくしま農林水産情報ネット(アドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/>)でも見る事が出来ます。